

差別と戦争をなくすために

ふるえるような怒りの奥底に、すぎるような生命の願いがあった

有馬 理恵さん 俳優座 俳優

(和歌山県出身。俳優座研究所を経て俳優座劇団員)



有馬 理恵さんはイラクで人質になったカメラマン郡山総一郎さんと結婚。一児の母。今一人芝居「釈迦内柩唄」(水上 勉原作)をライフワークとして全国をまわっています。舞台は戦前、中国や朝鮮の人を強制労働させた花岡 鉦山の近郊の村、釈迦内。主役はその釈迦内の火葬場の娘、ふじ子。家業を引き継ぐふじ子の思いを描いた物語。

有馬さんは舞台女優として活躍するとともに、憲法九条をまもる会の小森陽一氏とともに、演劇表現を通して差別、戦争を伝えてきました。また有馬さんは祖父、父親の生き方にも影響を受け、部落解放の運動にも大きく関わってきました

差別と戦争をなくすために

お芝居とおはなし 有馬 理恵さん

母親大会に初めて参加し、大勢で参加して驚きました。もっと市民に知らせ、広めたらいいと思いました。

さすが有馬さんは舞台人だなあと思いました。一人芝居がすばらしかった。声もマイクなしで会場に響き渡っていました。

私の友人が部落差別で結婚できなかった悲しい事実を思い出しました。有馬さんの生い立ちから始まり、現在まで力強く生きている様に圧倒されました。従軍慰安婦の方の話や、有馬さんのじいさんの戦争の話は壮絶すぎました。それが真実であることを再認識しました。

20分に短くした一人芝居でしたが、手に汗を握る思いで聴いていました。差別をゆるさない有馬さんの生き方がひしひしと伝わってきました。

すぎな班のみんなで共有した時間が過ごせてよかった。有馬さんは芝居を通して差別と戦争をなくすために、活動されていると言われ、感動しました。

(新日本婦人の会 すぎな班)

「釈迦内枢唄」にこめられた思い

有馬さんの熱演に思いふたたび

「釈迦内」は北秋田にあり、花岡、尾去沢、小坂鉦山などに近いところにあります。太平洋戦争の折り、日本は中国や韓国の青年を「徴用」で動員、北海道や秋田の鉦山に連行、(4万人中花岡鉦山に1.284人)工夫として働かされました。ろくな食事も与えられず、毒草を食べて死んだり、共楽館に逆さ吊りにして暴行し殺すなど残虐の限りをつくしました。「釈迦内枢唄」の劇中では、この責苦から逃れようとした中国の青年が脱走し、「火葬場」の家族に救われるが、憲兵に見つかり連行されるという物語なのですが、日本帝国主義の残虐さが描かれています。

演者の有馬さんの秋田弁と演技にはただただ敬服しました。

秋田県花岡町では「日中不再戦友好碑をまもる会」が結成されており、毎年記念碑の前で集会が開かれ、不戦の誓いをしております。私も参加したことがあります。

(年金者組合 斎藤 セツ)